

市長提案説明

本市初のPFI事業として整備を進めていた岡崎げんき館が平成20年3月1日にオープンし、西部地域交流センター（やはぎかん）を始め、動物総合センター、東部地域福祉センターなどの大型プロジェクトも完了する。今後は、市民にこれまで以上に「岡崎に住んで、本当に良かった」と感じてもらえ、市民が行政の主役になれる岡崎市をつくっていかなければならないの思いを強くしている。

新年度予算

平成20年度一般会計は1108億1000万円、特別会計は850億6238万円、企業会計は295億8530万円で総額は2254億5768万円となり、19年度当初予算



との比較は93・4%となった。

今年度予算は、「安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算」として、引き続き岡崎21世紀プラン第9期実施計画や新市建設計画の確実な実施と中長期的な財政の健全性に留意している。予算編成は、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興の四つを重点課題として市民福祉の向上を目指した積極的なもので、主な重点事業は以下のとおりである。

重点事業

安全・安心なまちづくりでは、各地で地震災害が発生し、災害に備える必要性を強く感じている。防

災対策として緊急地震速報の活用に取り組み、小中学校を始め医療施設や防災活動拠点施設などに整備していく。また、東消防署形埜出張所については、21年4月の開所を目指し本体工事に着手していく。

更に、岡崎げんき館では、保健サービスを始め健康づくりや子育て支援などのサービスを提供して、市民の健康維持と増進を図り、元気で健康なまちづくりを進めていく。

都市基盤の整備は、東岡崎駅周辺及び藤川地区の拠点整備のため、

都市整備部に東岡崎・藤川地区整備課を設置するなど体制の強化を図り、事業を推進していく。

また、街路事業では、矢作地区の南北道路である矢作桜井線は、JR東海道本線と立体交差する（仮称）牧内跨線橋の調査設計を、岡崎環状線明大寺町地内では橋りょうの詳細設計を実施していく。河川改修では、占部川において県河川の広田川の改修計画に合わせ、下流より河道改修に着手していく。

子育て支援では、こども課を設置し、後期岡崎市児童育成支援行動計画の策定に向けた取り組みを始め、子育て関連の施策を重点的に進めていく。

保育事業は、延長保育や一時保育の実施園の拡大、本宿保育園の建て替えなどを実施する。また、乳幼児の医療助成事業は20年度から子ども医療助成事業に名称を改め、対象を中学校卒業まで大幅に拡大して子育て世代の経済的な負担を軽減する。更に、新生児聴覚検査費用の一部補助や、げんき館において子どもの発達や発育に不安を持つ親を支援する子ども発達サポート事業を始める。

教育文化の振興では、図書館交流プラザが間もなく本体工事を完了し、引き続き駐車場などの外構工

事を行うとともに図書館の移転事務を進め、一方で、開館のプレイベントも実施していく。開館後は、図書館を中核とした生涯学習施設として各種講座や講演会を開催するとともに、市民活動の活性化などによる地域の賑わいの創出を図る。

小中学校の施設整備では、災害時に避難所になることから建て替えるを進めていた屋内運動場は19年度で整備が終了した。引き続き、校舎の耐震補強を実施していく他、教室不足を解消するための校舎の増築や施設の老朽化に伴う改修も行う。

また、放課後の子どもたちの安全で健康的な居場所づくりのための対策事業として、小学校2校で子ども教室のモデル事業を実施する。

新文化会館については、老朽化した現市民会館に代わる新たな芸術文化の創造拠点として、基本構想の策定に着手する。

以上四つの重点事項の主な事業の他に、19年度に着手した新一般廃棄物中間処理施設は23年度に、水とみどりの森の駅整備事業の「わんPark」は21年度にそれぞれ完成を目指して工事が本格化する。また、金沢市との観光交流都市協定による市民ツアーや、好評だった乙川舟遊びも充実させていく。